特集

モリオカモリアゲ宣言！

「盛岡市商店街の活性化に関する条例」制定から1年を迎えて

昨年9月29日、盛岡市で一つの条例が制定され、即日施行されました。「盛岡市商店街活性化に関する条例」。それは、商店街組合の加盟促進だけを目的にしたものではなく、街に息づく地域の交流や文化を守り、未来の子ども達に大切な財産を残すため。条例施行から1年―、ある商店街では少しずつ変化があらわれています。

子ども神輿、岩手女子高書道部のパフォーマンスなど、地域の住民がさまざまな形で参加できるプログラム満載の「上田夏まつり」。

昨年制定された「盛岡市商店街活性化に関する条例」は、商店街が抱える課題を行政の立場から後押しし、活性化を図ろうというもの。1年が経過した今、条例を追い風に商店街の魅力アップに努め、成果を出している事例をご紹介します。

全国にみられる商店街の課題

郊外型大型店の増加、後継者不足や経営者の高齢化による廃業など、商店街における課題は深刻化しつつあります。これは盛岡市に限ったことではなく、全国各地の商店街が抱える共通課題といえるでしょう。かつては、盛岡市内にも、城下町の佇まいを残す昔からの商店街がいくつも見られました。しかし、ライフスタイルの変化や全国チェーン店の地方進出などにより街並みも変化し、商店街の来街者が減少しつつあります。そこで盛岡市内の商店街は、街に賑わいを生み出そうと、さまざまな活動を進めてきました。

盛岡市上田商店街㈳副理事長を務める、盛岡上田郵便局長・中川善功さん。

祭りは活性化のきっかけ

盛岡市商店街連合会には26の商店街が会員として名を連ね、情報交換や街づくりに向けた積極的な活動に取り組んでいます。共通する課題の一つは商店街組合への加入者が減っていること。「盛岡市上田商店街協同組合」も同様の悩みを抱えていましたが、昨年から今年にかけて、新たな加入者が増えているそうです。

夏の夕暮れにマッチした「ハワイアンフラ」。

同組合は、昭和49年に発足。一時は会員数が60を超える時期もありましたが、ここ数年で会員数は減少傾向にありました。しかし、商店街の目玉イベントとして昭和50年から続く「上田夏まつり」が、街の賑わい創出に大きな役割を果たしてきたとのこと。祭りを継続する方法として、上田第一、上田第二、上田三小路、富士見町の町内会が、警備や回覧板を使った広報などに協力し運営を盛り立ててきました。さらに今年からは、北山自治会や近隣学校の協力も得て、充実した内容の祭りを開催することができました。

同組合の副理事長を務める中川善功さんは盛岡上田郵便局長。商店主ではありませんが、地域の人と深く携わる仕事だけに、商店街の活性化は他人事ではありません。

「条例制定にあたって、各商店街から現状の課題や要望、意見などを出し合う場にも参加しました。当事者の一人として、条例制定の意図を十分にわかるだけに、組合加入の働きかけにも力が入ります。昨年から今年にかけて、商店街の飲食店に組合員加入の話を持ちかけると、8店舗が新たに加入してくれました」。

条例をどう活用するか

中川さんによれば、加入を勧める際によく聞かれるのが「なぜ組合に入らなくてはいけないか、加入のメリットは何か」ということ。上田商店街の場合、「上田夏まつり」は組合加入のメリットを具体的に感じてもらえるいい機会といえます。

「この商店街に若い人を呼び、賑わいを取り戻していくために、夏のメインイベントである『夏まつり』に足を運んでもらい、催しを楽しんでもらうことが大きな意味を持ちます。商店街の店主は、組合に加入すれば『夏まつり』にブース料なしで参加できるし、新しい店なら、露店で店の味をPRできる。組合に入ることで経営面の情報も入りやすくなり、困ったことがあっても相談できる窓口を紹介してもらったり、商店として街に対する要望や期待を組織的な形で提案することができます」と中川さん。

条例を上手に活用していくにあたって、商店街活動への積極的な参加が個々の店にどんなメリットがあり、街の魅力をどう広げていけるのか、組合側もイメージを明確にし、説明していく必要があります。

行政、商業団体 市民が一体となって

「上田夏まつり」の内容構成について中川さんに伺うと、細かな工夫がされています。

「まずは、子ども中心のイベントを用意すると親も足を運んで来る。さらに親子どちらも楽しめるイベントを取り入れたり、地域の学校に出し物を用意してもらったり、一般住民にステージ開放して幅広く参加できる交流の場も設けました。今年は復興支援もテーマの一つに掲げました。まだまだ改善が必要ですが、商店街だけでなく町内会や自治会ぐるみのイベントとして広げていきたいと思っています」。

この夏まつりは地域に根差した催しの一つ。子ども達が関わることで、街全体への愛着も生まれ、親子みんなが商店街のイベントに足を運べば、地域の人を知る機会にもつながります。昔からのやり方を活かしながらも、若い世代がバランスよく新しい発想を組み込むことで、うまくいっていると中川さんは話します。

こうした試みの成果は「商店街」と「事業主」といった立場を超え、普段から膝を突き合わせた交流を図っていることも大きいようです。盛岡市内には、他にも街の魅力を活かしたイベントがあちこちに見受けられます。それらに共通するのは、決して大規模でなくても、地域と商店街が協同しながら運営されていること。行政、商店街、事業者、市民それぞれが常に一体となって地域をもりあげることが、街全体の魅力になっていくのかもしれません。

取材／「SANSA」企画編集委員会

「材木町よ市」とあわせて開催される酒買地蔵尊祭。大きな地蔵が登場して来場者の注目を集めています。

盛岡駅前商店街で行われる「100縁商店街」。100円商品の販売を通じて、お客様との“縁”をつくるイベント。

毎年5月、大通商店街で行われる「親子お絵かき大会」。路上で自由にパネルに絵を描く企画は20年以上継続。

10月末に肴町で開催される「ハロウィンフェスティバル」は仮装も見どころ。フラッグアートも彩りを添えます。

冬の風物詩となった「もりおか雪あかり」。メイン会場は盛岡城跡公園ですが、ここ数年で市内各地に広がっています。